

研究例会

日程	タイトル	発表者
2022年6月29日	戦前期有給吏員とは何者なのかー 社会事業主事・主事補を中心にー	青木 尚人（本研究所研究員）
2022年4月25日	長時間介護サービスを利用する障害者の「生きづらさ」と介護関係に関する研究	金 在根（本研究所特任研究員）
2022年1月22日	新生児医療における治療方針の決定に関する「話し合い」に内在する課題	土屋 裕子（本研究所特任研究員）
2021年10月11日	団地の再生の潮流と「高島平団地」の現在、居住者の意識と今後	野呂 芳明（本研究所所長）
2020年10月10日	① 乳房再建は何をもたらすのかー 乳がん経験者の語りからー ② 就学援助制度における自治体の参照行動	① 菅森 朝子（本研究所研究員） ② 関根 未来（本研究所研究員）
2019年11月6日	肺がん患者たちの集団はいかなる活動を展開しているかー「アドボカシー活動」を中心としてー	齊藤 公子（本研究所研究員）
2019年5月30日	日本の中間層と再分配政策	田中 聡一郎（本研究所特任研究員）
2019年2月2日	① 長時間介護サービスを利用する障害者の「生きづらさ」と介護関係に関する研究 ② 「河内山哲朗オーラル・ヒストリー」を読むー「地方分権改革」・「三位一体の改革」への証言を手掛かりにー	① 金 在根（本研究所特任研究員） ② 新嶋 聡（本研究所研究員）
2018年11月15日	保健医療社会学におけるエスノメソドロジー研究ー病院のワークの研究と病の語り研究を中心にー	前田 泰樹（本研究所所員）
2018年6月1日	① 人と動物の関係性の社会学ーHuman-Animal Studies (HAS)と批判的实在論ー ② これまでの自身の研究についての報告	① 梶原 はづき（本研究所研究員） ② Lucero Noyola（本研究所研究員）
2018年1月20日	① 技官たちの公害対策ー厚生省環	① 新嶋 聡（本研究所研究員）

	<p>境衛生局の新設—</p> <p>② 韓国における国民年金の成立過程</p> <p>③ 身体接触による性別の話題化— 足湯ボランティア活動の相互行為分析—</p>	<p>員)</p> <p>② 金 敏貞 (本研究所研究員)</p> <p>③ 須永 将史 (本研究所所員)</p>
2017年9月25日	高齢妊娠の現状と課題	菅野 摂子 (本研究所特任研究員)
2017年7月7日	患者の意思決定における尺度とその統計解析手法—日本語版 Decision Regret Scale を中心に—	丹野 清美 (本研究所所員)
2017年5月19日	公衆衛生の対象としての精神障害者支援	酒本 知美 (本研究所特任研究員)
2017年1月18日	<p>① 職場における妊娠・出産の権利—マタニティ・ハラスメント防止措置義務化を受けて—</p> <p>② フェミニズムのジェンダー概念と性科学のジェンダー概念</p> <p>③ デンマークフレキシキュリティ研究の現在</p>	<p>① 杉浦 浩美 (本研究所特任研究員)</p> <p>② 須永 将史 (本研究所所員)</p> <p>③ 菅沼 隆 (本研究所所長)</p>
2016年10月17日	公債を支えた人々—坂本優一郎『投資社会の勃興—財政金融革命の波及とイギリス』を読んで—	一ノ瀬 佳也 (本研究所特任研究員)
2016年7月29日	韓国における国民福祉年金の成立と延期	金 敏貞 (本研究所研究員)
2016年1月	<p>① 障害者の貧困立と所得政策の現状</p> <p>② 佐口卓氏と社会保障制度審議会—「佐口蔵書」審議会資料より—</p> <p>③ デンマークのフレキシキュリティの「その後」</p>	<p>① 百瀬 優 (本研究所特任研究員)</p> <p>② 新嶋 聡 (本研究所研究員)</p> <p>③ 菅沼 隆 (本研究所所長)</p>
2015年10月	少子化対策におけるエンゼルプランの意義に関する考察	浅井 亜希 (本研究所特任研究員)
2015年9月	生活保護と医療—生活保護開始前後の医療機関受診の分析を中心に	大津 唯 (本研究所所員)

	—	
2015年7月	環境倫理と福祉	河野 哲也（本研究所所員）
2015年5月	ケアと貨幣—障害者自立生活運動における介護労働の意味—	深田 耕一郎（本研究所所員）
2015年1月	① 「国民皆年金」形成過程の証言—厚生官僚追悼集のアーカイブズ的研究— ② 公害審議会と厚生官僚—技官研究への足掛かりとして— ③ 日本の社会保障の歴史メモ（成文堂『社会保障論』）	① 田中 聡一郎（本研究所特任研究員）、新嶋 聡（本研究所研究員） ② 新嶋 聡（本研究所研究員） ③ 菅沼 隆（本研究所所長）
2014年11月	パラリンピック競技者におけるスポーツ施設のアクセシビリティの現状について	前田 有香（本研究所研究員）
2014年10月	医療保険の分立と国民健康保険の諸課題	大津 唯（本研究所所員）
2014年7月	デンマークにおける雇用形態の多様化と労使関係	菅沼 隆（本研究所所長）
2014年6月	健康礼賛の功罪—健康で前向きに生きなければならない現代社会—	三澤 仁平（本研究所所員）
2014年6月	ハンナ・マレネ・デール教授を囲む研究会	ハンナ・マレネ・デール（教授）
2014年5月	グローバル経営課の労使関係—ドイツと日本の自動車産業を対象に—	首藤 若菜（本研究所所員）
2013年10月	障害者の自立生活と「あきらめ」について—CILに勤務する肢体不自由者の自立生活前後の「あきらめ」に焦点をあてて—	金 在根（本研究所研究員）
2013年7月	『自立と福祉』合評会	所員・研究員
2013年5月	精神科ソーシャルネットワークの「先駆性」とは—福祉研の歩みとの関連をふまえて—	福富 律（本研究所研究員）
2013年1月	立教SFR自由プロジェクト研究「自立と福祉をめぐる制度・臨床への学際的アプローチに関する研究」研究	SFR研究分担者

	報告会	
2012年11月	当事者の語り合いからうまれる「自画像」—支配的文化の理性に対する批判—	鈴木 隆雄（本研究所研究員）
2012年7月	知的障害で性同一性障害（FtM）当事者のセクシュアル・アイデンティティ形成—人びととの〈相互作用〉がセクシュアル・アイデンティティ形成に与える影響—	杉崎 敬
2012年5月	① 生活保護自立支援プログラムと行財政 ② 被保護精神障害者への支援策に関するアンケート結果 ③ 退院促進事業の事例分析	① 田中 聡一郎（本研究所所員） ② 百瀬 優（本研究所研究員） ③ 酒本 知美（本研究所研究員）
2012年1月	① 自立をめぐる哲学的考察：障害の当事者の自立と平等 ② 自立概念の再検討—臨床社会学のアプローチから— ③ デンマークにおける障害者所得保障制度—障害者と経済的自立— ④ 生活保護と障害者 ⑤ スウェーデンと日本の障害者支援から見る自立—支援者が阻む自立— ⑥ 母子家庭対策からみる自立と地域—子どもの福祉と教育保障の視点からの考察— ⑦ 精神保健福祉政策からみる自立と地域	① 河野 哲也（本研究所副所長） ② 深田 耕一郎（本研究所研究員） ③ 菅沼 隆（本研究所所員） ④ 田中 聡一郎（本研究所所員）、百瀬 優（本研究所研究員） ⑤ 河東田 博（本研究所所長） ⑥ 湯澤 直美（本研究所所員） ⑦ 酒本 知美（本研究所研究員）
2011年12月	① 震災後の地方財政と社会保障 ② 福祉と贈与—ある全身性障害者の自立生活にかんする社会学的研究—	① 田中 聡一郎（本研究所所員） ② 深田 耕一郎（本研究所研究員）
2011年11月	厚生労働白書にみる我が国の精神	松原 玲子（本研究所研究員）

	保健福祉施策と入院者からみる精神科病院	員)
2011年7月	ジェンダー・家族政策をめぐる福祉国家の比較政治学的分析	浅井 亜希 (本研究所研究員)
2011年5月	福祉と闘争—戦後日本における全身性障害者の公的介護保障要求運動にかんする社会学的研究—	深田 耕一郎 (本研究所研究員)
2011年1月	① デンマークの失業保険—失業金庫とフレキシキュリティー ② 障害者とセーフティネット ③ 十勝圏域における精神保健福祉領域の地域生活支援システム構築の過程	① 菅沼 隆 (本研究所所長) ② 田中 聡一郎 (本研究所所員) ③ 酒本 知美 (本研究所研究員)
2010年7月	障害年金に関する論点整理	百瀬 優 (本研究所研究員)
2010年5月	労働と身体をめぐる—考察—『働く女性とマタニティ・ハラスメント』を中心に—	発表者: 杉浦 浩美 (本研究所研究員) コメント: 佐川 佳南枝・三具 淳子・菅野 摂子・深田 耕一郎 (すべて本研究所研究員)
2010年1月	① 人口問題にみる福祉国家の比較政治—スウェーデン・フランス・イギリス— ② 精神科病床数削減のための指標—十勝圏域の医療扶助からの考察— ③ 戦争の記憶が語られる場—認知症高齢者たちの語りあいから—	① 浅井 亜希 (本研究所研究員) ② 酒本 知美 (本研究所研究員) ③ 佐川 佳南枝 (本研究所研究員)
2009年12月	障害者と生活保護	田中 聡一郎 (本研究所所員)
2009年11月	デンマークのフレキシキュリティー	菅沼 隆 (本研究所所長)
2009年7月	ノーマライゼーション原理誕生史と脱ノーマライゼーション—スウェーデンからの風—	河東田 博 (本研究所所員)
2009年1月	① 大学内における発達「障害」を抱えた学生への就職支援に関する	① 片岡 彩 (本研究所研究員)

	<p>る研究</p> <p>② 十勝圏域における精神科病床数削減の要因分析からみる地域生活以降への指標—帯広市・十勝圏域における保健年報の変化から—</p> <p>③ 「患者中心の医療」言説のダイナミクス—患者・医師の「知」と関係性—</p>	<p>② 酒本 知美 (本研究所研究員)</p> <p>③ 松繁 卓哉 (本研究所研究員)</p>
2008年10月	贈与としての社会福祉—公的介護保障要求運動の実践を事例に—	深田 耕一郎 (本研究所研究員)
2008年7月	給付つき税額控除の国際的動向	田中 聡一郎 (本研究所所員)
2008年6月	ユニバーサルデザインとアシスティブテクノロジーの科学技術理論	河野 哲也 (本研究所所員)
2008年1月	<p>① ジェンダー理論の展開—英文ジャーナル (2000~2007年夏) 5誌のサーベイより—</p> <p>② イギリス Expert Patient Program に見る「素人専門家 (lay expert)」としての患者像—その可能性と課題—</p> <p>③ 精神科デイケアにおけるグループワークの試み—SST と比較しながら—</p> <p>④ デンマークの平均寿命はなぜ短いのか?</p>	<p>① 三具 淳子 (本研究所研究員)</p> <p>② 松繁 卓哉 (本研究所研究員)</p> <p>③ 松森 大 (本研究所研究員)</p> <p>④ 菅沼 隆 (本研究所所長)</p>
2007年11月	被虐待経験を持つ子どもの心理コンサルテーションについて	加藤 尚子 (本研究所所員)
2007年7月	福祉社会の行方と地域政策について—覚え書き—	野呂 芳明 (本研究所所員)
2007年6月	立教大学総合研究センタープロジェクト報告 女性の就業継続に関する調査研究—妊娠期の職場環境と出産後の保育の見通しに着目して—	杉浦 浩美 (本研究所研究員)

2006年11月	自著を語る―『被占領期社会福祉分析』(ミネルヴァ書房、2005)を振り返って―	菅沼 隆 (本研究所所員)
2003年7月	科学研究費補助報告 児童福祉施設におけるアセスメント作成	福山 清蔵 (本研究所所長)
2003年6月	心理・社会臨床における“事例研究”再訪 (1)	佐藤 悦子 (本研究所所員)
2001年4月	外国人の子どもの保育 2―新宿区内保育所の保育者へのアンケート調査より―	
2000年10月	知的障害者施設でのワークキャンプでの経験を通して	
2000年7月	外国人の子どもの保育―保育所入所に関する東京都内三区の比較調査より―	
2000年5月	高齢入院者の退院援助および在宅サービスの連携における課題―自宅退院のマネジメント・プロセスに関する事例研究―	
1999年10月	保険・医療システムにおける心理・社会的援助について―自己決定から考える―	
1999年7月	少年保護における自由権保障と社会権保障の葛藤	
1998年10月	育児教育の視座	
1998年7月	日本におけるドメスティック・バイオレンスの現状と課題	
1998年4月	障害者を抱える家族の援助	
1998年1月	『四方福祉』を問い直す	
1997年10月	公的介護保険制度の導入と社会福祉	
1997年7月	社会福祉における情報化の意義と課題	
1997年4月	高齢糖尿病患者のグループ心理療法の試み	
1997年1月	幼保一元について	

1996年10月	福祉サービス導入と家族機能—ホームヘルパーサービスの利用をめぐって—	
1996年7月	乳幼児の対人関係と“自己”の形成	
1996年4月	教護院について	
1996年1月	在宅障害者について	
1995年10月	補導委託について	
1995年6月	ピア・カウンセリングについて	